



JRC 千葉

2022
Vol.14

おかげさまで、青少年赤十字100周年



特集

千葉県の青少年赤十字の歴史を振り返る

NEW

指導者インタビュー・新規採用校紹介コーナー



学校(園)で活かせる

青少年赤十字のプログラム

学習で活用できるプログラム

学校の要望に応じた体験活動を実施することができます。

体験活動を通じて、児童生徒に「命と健康の大切さ」を伝え、相手に対する思いやりを行動に移すことができる子供の育成に活用できます



- 救急法講習会(AEDの使い方、心肺蘇生)
- 水上安全法講習会(着衣泳)
- 福祉体験プログラム(高齢者体験、車いす体験、点字体験)
- 各種講話(防災について、ボランティアについて、国際理解について)
- 職場体験、インターンシップの受け入れ

学習プログラムの詳細はこちら ▶



充実した資料と学習サポート

青少年赤十字では、体験活動等を実施するための豊富な人材や学習資料を用意しています。



- 救急法等講習会の指導員(赤十字指導員)
- 各種講演会の講師(赤十字職員)
- 体験活動の講師・補助者(赤十字ボランティア)



- 高齢者疑似体験セット(31セット)
- 点字盤セット(40面)

など

活動に活かせる資料等の提供

青少年赤十字の特徴である実践目標・態度目標に基づいた教材を提供することができます。

教材はホームページからダウンロードすることができます。



防災教材



機関紙



生きる力

文部科学省 学習指導要領

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切だと示されています。その中で次の充実化がうたわれています。

体験活動の重視

学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。

- 赤十字の救急法等講習会の活用
- 児童生徒向け研修会・交流会の活用
- 福祉体験プログラム

道徳教育の充実

道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

- 地域の赤十字ボランティアとの学習サポートを通じた相互交流

青少年赤十字 (Junior Red Cross) では、さまざまなプログラムが用意され、子どもたちの考え方や行動力、社会性を広げます。

総合的な学習 (探究) の時間や教科の学習、部活動、学級・児童会・生徒会・委員会活動等の様々な場面で活用してみませんか？

赤十字主催のプログラム

児童生徒向け研修会・交流会

他校の児童生徒と交流・学習し、共に高め合うことができます。



- リーダーシップ・トレーニング・センター
- スタディー・センター
- 千葉県青少年赤十字のつどい
- 高校メンバー協議会・中学生交流会

指導者向け研修会

青少年赤十字が長年培ってきたノウハウを指導者に提供しています。



- 教師のための指導力アップセミナー など

国際理解教育への活用

赤十字のネットワークを活かし、国内外を視野に入れた活動や、海外メンバーの受け入れなどを行っています。

コロナ禍ではオンラインを活用した交流を実施しています。



- 国際交流派遣、受け入れの実施
- 一円玉募金を通じた海外への支援
- トピックアルバムやビデオレターの交換

国内交流派遣 (小学生メンバー対象)

※佐賀県のメンバーとの交流を実施しています。



JRCを経験した 子どもたちの声



いのちと健康を
大事にします。

友達の気持ちを
考えて行動します！



学校や家で
自分ができることを
実行しています。



青少年赤十字の「実践目標」と「態度目標」

児童生徒の「生きる力」の充実と実践に
青少年赤十字が活用できます。

実践目標 「生きる力」の充実化

バランスよく育てる教育方針

『健康・安全』

生命と健康を大切にする

『奉仕』

社会のため、人のためにつくす
責任を自覚し、実行する

『国際理解・親善』

広く世界の青少年を知り、
仲良く助け合う精神を養う

態度目標 「生きる力」の実践

活動においての指針

『気づき』

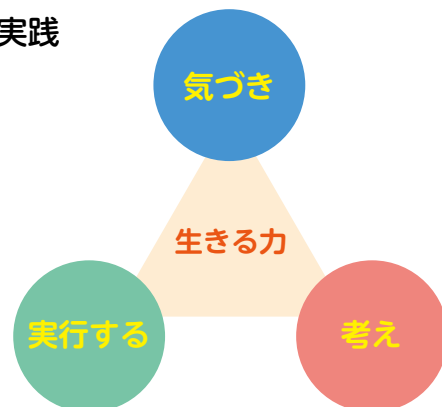
自分の生活や社会のニーズに
気づく

『考え』

原因と解決の方法を考える

『実行する』

問題解決のための具体的な
行動を実行・評価・反省する。



活動紹介 1

健康・安全、奉仕

高等学校 災害に備えよう！～文化祭で防災展示～



詳細情報

千葉県立船橋二和高等学校のJRCボランティア部が、文化祭で「防災」をテーマとした展示を行い、校内での防災啓発活動を行いました。

災害時に必要となる防災グッズや近隣の防災マップなど、防災に関する展示をはじめ、部活動紹介ポスターなども掲示されました。

展示品のPOPや防災マップなどはメンバーの手作りで、細かな工夫が施されていました。



展示品のPOP



防災マップの作製に取り組むメンバー



JRC部のメンバー

小学校 学年を越えてつながる1円玉募金活動

布施学校組合立布施小学校では、6年生の「放送・JRC・掲示委員会」メンバーを中心に毎月、1円玉募金活動に取り組んでいます。募金を担当するメンバーは下級生に募金の意味について説明をしたり、掲示板を活用して募金を呼びかけたりしています。

1円玉募金は海外の青少年赤十字メンバーの支援などに活用されているので、国際理解・親善にもつながる活動のひとつです。



各教室に募金を集めに行きます



放送・JRC・掲示委員会のメンバー

各校からの常時活動の紹介(一部)

山武市立成東小学校・・・絵本(アンリーデュナン)の読み聞かせ、国際理解教育(総合)

千葉県立我孫子東高等学校・・・災害義援金募金、校外清掃活動

船橋市立坪井小学校・・・はるかのひまわり種植え活動

いすみ市立東小学校・・・車いす体験学習、ボランティアについての講話

敬愛学園高等学校・・・手話の学習会の開催

千葉県立佐原白楊高等学校・・・ハイゼックス袋を利用した防災食づくり



活動紹介 2

国際理解・親善

海外メンバーにメッセージを届けよう(国際交流支援事業の活用)

採用校のJRC委員会や英語部、特別支援学級のメンバーから、海外メンバーに向けたメッセージが届きました。



新型コロナウイルスの感染が広がる中、国内外問わず“交流”することが難しい状況が続いています。そのような中でも、赤十字の世界的なネットワークを生かしてオンライン交流やビデオレター、トピックアルバム等で地域や学校の紹介を英語で発信することで、海外の青少年赤十字メンバーとつながることができます。

メンバー向け研修会

千葉県青少年赤十字メンバーオンライン研修・交流会(青少年赤十字のつどい)



令和3年11月5日(金)に開催され、小中高合わせて15校、104名の児童生徒の参加がありました。

この研修・交流会は、コロナ禍で県内の青少年赤十字メンバーが集まって交流することが難しいことから、「何かオンラインを活用した行事はできないか?」と検討を重ね、高校メンバー協議会役員によって企画・運営されたもので、「赤十字について」などの講義は所々にクイズを交えたり、「義肢製作所オンラインツアー」は対話形式で紹介したりして、見ている人が楽しめる工夫がされていました。



千葉県青少年赤十字スタディー・センター

令和3年12月に開催され、小中高合わせて26校、50名の児童生徒の参加がありました。この研修は例年宿泊を伴う形で実施していましたが、コロナ禍では日帰りで開催し、感染症対策を徹底して取り組みました。参加した生徒からは「もっと周囲をよく見て、気配りができるようになりたい。」「困っている人に気づき、誰かのために行動ができるようになったと思う。」などの感想が寄せられました。



距離を取ったグループワーク



三角巾による応急手当の練習



グループで意見を交わします

特集

千葉県の青少年赤十字の歴史を振り返る

創成期

1948[S23]～
1968[S43]ころ



「人づくり」

指導者育成に力を入れる。本社主催の講習会に千葉県からも多数の先生方が参加した。その後、千葉県でも支部主催の指導者向け研修を行った。同時に、児童生徒を対象に千葉県トレーニング・センターが開催。昭和25年から49年まで継続。多い年は1000人を超えるメンバーが参加した。



1957(S32) 指導者研修会



1948[S23]



Since1922[T11]

千葉県の青少年赤十字は、千葉大学教育学部付属第一中から始まった。

日本の青少年赤十字は滋賀県守谷小から始まった。

こぼればなし

千葉県の青少年赤十字の前身[少年赤十字]は、1926年(大正15年12月)が創設である。「少年の心に人類の共同心を国際的に養成する最も必要な要素」だったが、軍国主義、国家主義の傾向に流されその方向が見失われた。戦後その真価を発揮するため「再建青少年赤十字」となる。

転換期

1969[S44]～
1989[S64]ころ



「青少年赤十字の改革」

青少年赤十字の組織及び活動に関する規定が示された。①青少年に対する赤十字の精神の必要性②青少年赤十字のもつべき性格③学校を現場として行われる青少年赤十字など内容を明確にし、活動の場を学校教育とし社会教育と連携して進めよう、昭和40年代後半は青少年赤十字にとって大きな転換期といえる。



1973(S48) 指導者研修会



1969(S44) 校長対象 講習会



1956(S31) 県立千葉第二高女
街頭募金へ



1988(S63) 指導者講習会

「充実した活動」

千葉県一か所で行っていたトレーニング・センターを昭和50年度から会場を分けて行った。多い年は、23会場1426人のメンバーが参加した。昭和53年度からは、中学生、高校生を対象に千葉県スタディー・センターを開催した。昭和54年度からは、地区協議会及び地区事務長会議も始まり、各地区が活発に活動する。



小学校ステーション



中学校ステーション



高校ステーション



小学校地区トレセン



研修会講師 朝野先生



研修風景



1986(S61) 青少年赤十字大会

充実期

1990[H2]～
2020[R2]ころ



「広がる仲間」

昭和23年に千葉大付属第一中学校から始まった青少年赤十字活動も、昭和61年に200校を超え、平成5年には249校となった。千葉県青少年赤十字指導者協議会に組織化され、自主的に活動できる児童生徒の育成体制が確立された。



南小中台幼稚園 来館



義肢製作所での体験 妙典中



研修推進校 興津小



文化祭 流山高

「メンバーの派遣」

青少年赤十字の実践目標の一つである「広く世界各国の青少年を理解し親善を深める」という目標を実行に移した活動である。昭和41年度に青森県、福島県群馬県に12名のメンバーと2名の引率者を派遣したことから始まる。その後、国内の支部を訪問し、海外派遣に発展した。昭和57年度から62年度まで、日韓交流を6年にわたり実施した。そのほか、青少年赤十字大会などでもネパール、マレーシア、タイのメンバーと交流した。



ベトナム訪問



成田赤十字病院訪問
印旛JRCメンバー



非常食体験 上瀬小
奉仕団と一緒に



救助法フェスタに参加



防災学習



福岡県支部訪問



国際交流



国内訪問

黎明期

2021[R3]～



「防災教育・心の教育」

1990年(平成2年)長崎県雲仙・普賢岳の噴火、1993年(平成5年)北海道南西沖地震、奥尻での津波、そしてまだまだ復興途中の2011年(平成23年)東日本大震災。我が国日本は災害が多く、それを防ぐ力が必要とされている。青少年赤十字では、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の三大実践目標を再確認し、いのちを守ることを学ぶ教材を作成して防災教育に力を入れている。また、近年の「新型コロナウイルス感染症」に対して、身体だけではなく、心の健康についても力を入れている。根底に流れるものは、今までもこれからも「人づくり」である。



児童による安全マップ



防災講話 船橋中



被災地訪問 旭市



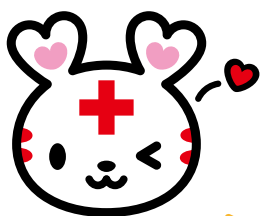
未来へ 2023[R5]～

私の中の青少年赤十字



南房総教育事務所安房分室

鈴木 美映子先生
(JRC指導歴20年以上)



南房総教育事務所安房分室 鈴木先生にお話を伺いました。

Q1. 青少年赤十字活動を始めたきっかけはなんですか？

地区リーダーシップ・トレーニング・センターにスタッフとして参加したことです。その後、ある先生からの紹介で県スタディー・センターにも参加するようになり、気が付いたころにはすっかり常連になっていました(笑)。今思えば、当時指導にあたっていた先生方の熱心な姿に魅了されていたのでしょうね。

Q2. 普段の教育活動での活用があれば教えてください。

JRC未採用校での勤務がほとんどでしたが、過去に受け持ったクラスでは、子どもたちに過予定を知らせたり、掲示板に予定を書いたりして、先の見通しを考えさせ、主体的に活動できる環境づくりを心掛けていました。これは、「先見」と呼ばれるJRCの指導法に基づいているものです。

Q3. 青少年赤十字活動で印象に残っていることはありますか？

17年ほど前に一緒に学年を組んだ先生から、先日連絡があり、「鈴木先生が言っていた「気づき、考え、実行する」の考え方は今でも学級経営に役立っている。」と言われたことですね。JRCの考え方は、採用・未採用を問わず、純粋にいいものだから取り入れられているということを実感できた瞬間でした。

最後に、「JRCには100年かけて培ってきた考え方(指導法)や教材があります。日々の教育活動の中で、「青少年赤十字が使えるかも」と少しでも思ったら、どんどん活用してほしい。」とおっしゃっていました。

新規採用校紹介



千葉県立千葉中学校JRC担当

藤澤 隆次先生

新規採用校 千葉県立千葉中学校 JRC担当 藤澤先生にお話を伺いました。

Q1. JRCを採用したきっかけを教えてください。

生徒の「気づき」を大切に、新しいボランティア活動を始められないかと思ったことがきっかけです。

Q2. 学校での活用方法を教えてください。

本校は生徒会での取り組みが学校全体に波及しやすい環境が整っています。その特徴を生かしつつ、JRCの視点を取り入れながら持続可能な形でボランティア活動に取り組んでいきたいと考えています。

また、生徒たちにはJRCのメンバー向け研修会などで、他校の生徒との交流を通じて、「自分たちには何ができるのか」を「考える」きっかけとなり、校内で広めていくことを期待しています。

令和3年度の新規採用校

これからもよろしくお願いします。

- 銚子市立銚子西中学校
- 旭市立干潟小学校
- 旭市立中和小学校
- 千葉市立みつわ台南小学校
- 旭市立古城小学校
- 千葉県立君津商業高等学校
- 旭市立富浦小学校

千葉県の青少年赤十字

青少年赤十字の学校教育へ 採用推奨が

青少年赤十字の学校教育への採用推奨についての依頼文が発出されました。

千葉県では令和2年度から令和6年度までの期間に計画された、

第3期 千葉県教育振興基本計画

次世代へ光り輝く「教育立県ちば」プラン

を策定しました。

この中で、施策2「道徳性を高める心の教育の推進」において、「**日本赤十字社**や社会福祉協議会等の団体と連携した社会問題に取り組むボランティア活動等の推進」と記載されています。

▶千葉県教育委員会 教育長から
令和4年4月7日付
各県立学校長
各市町村教育委員会教育長
各教育事務所長あてに発出

▶千葉県総務部 学事課長から
令和4年2月17日付
各私立学校長あてに発出

▶千葉市教育委員会 学校教育部教育指導課長から
令和4年4月5日付
各千葉市立小中高特別支援校長あてに発出



千葉県PRマスコットキャラクター
チーバくん
千葉県許諾第A1562-7号

青少年赤十字の概況は

- 青少年赤十字は全国の幼稚園、保育所（園）、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の約14,680校で採用され、約350万人が活動しています。
- 千葉県では、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会の後援により行事を実施しています。
- 千葉県教育委員会及び総務部学事課、千葉市教育委員会から各学校の青少年赤十字の採用が推奨されており、県内の幼稚園、保育園を含んだ243校で、それぞれの実態に合わせて工夫した活動をしている仲間がいます。

青少年赤十字を採用すると

- 活動に役立つ学習資料・資材の提供が受けられます。青少年赤十字プログラム（中面）をご参照ください。
- 「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」に活用できる体験学習やボランティア学習、防災・減災学習等の指導者を無料で派遣することができます。
- 先生方を対象とした研修会、メンバーを対象とした職場体験等が受けられます。
- 採用することで、何らかの義務や強制を伴うようなことは、一切ありません。

